

パンタナール通信

南北米福地開発協会

会報

2007年1月1日 40号

迎春

レダ基地から見るパンタナールの朝陽

謹んで新年のお喜びを申し上げます。



人口爆発の世纪と言わたった20世紀の勢いが、二十一世紀の今も続いています。地球環境問題と共に食糧や限られた資源が問われます。問題の大半が陸地の上で作られていますが地球の三分の一を占める海をどう生かすかは、問題解決の鍵を握っています。今、私はその一環として独立した事業体のボート工場を建設し、ボート販売と共に海洋教育と訓練を進めています。この工場が南北米と北米が力を合わせて地球平和村建設に向かつて邁進していく基盤造りになると確信しています。今開発と共に、今年も一層力を合わせて貢献していく決意です。皆様の健勝を衷心より祈念申し上げます。

— 2007年元旦 南北米福地開発協会 会長 神山威

明けましておめでとうございます。



支援してくださった会員の皆様と、現地で直接汗を流された方々の努力で、今や美しいレダ基地の景観は、苦闘を乗り越えた開拓七年の成果を物語っています。これまで開拓もよし本格的換金事業を起して、継続維持発展させながら第二次七年路程として、基盤造りの時がやってきました。第一に既に環境対策として、地球上に優しくバイオ土木生産に注目し、昨年は「アマツリ」(トウモロコシ)の栽培が試みられ、収穫の可能性は充分確認されたが、更に搾油効率が高いパラクアイ産のジャatrofa(南洋油桐)の種の入手により、その栽培と情報収集に集中して取り組んでいます。ジャatrofa栽培は、実益を伴う本格的植林活動の一環を担うともなります。向こう二三年の内に10ha(10万坪)植林を目指します。それに伴う植林地造成、搾油工場や倉庫の建設、輸送手段の確保など、初期投資が必要になりますが、五百～一千ha拡大すれば三十年以上にわたり年間百万㌦を超える収益が期待されます。一方、近隣の村々の教育支援活動は、国際協力青年ボランティア隊派遣活動と共に、継続してまっています。地球環境問題に対応する一助としての植樹活動も、新機軸で展開していく計画です。今年はゴルフ場も既に「ゴルフ・センター」に決定しています。新しい転換期を向かえ、尚一層皆様の理解、協力を心願申し上げる共に、本年の一年を心から祈念致します。

— 2007年元旦 事務総長 飯野貞夫

エコツーリズムの宝庫、レダへ！！



今年は環境に優しい燃料バイオディーゼルの生産とともに生態系の宝庫、世界最大の湿地帯パンタナールの自然の素晴らしさに触れ、大量消費社会の中で枯渇した先進国の人々の心に豊かさを取り戻すエコツアーを計画しています。人の手によって侵食されていないあるがままの自然が残され、今も新たに新種が発見されるという多種多様の動植物が生息するパンタナール大湿地区へ多くの人が訪れ、心の故郷を実感してください。

環境保護、自然保护の原点は自然の美しさと妙味に対する

尊敬と愛情が原点となつて成されるものだと思います。

パンタナールの自然は到着し

たその瞬間から私達の心を包み知らず知らず愛着を残していく神秘的な場所です。

美しい朝陽、夕陽、夜空の星、

美しい湿地帯の風景、そして希

少生物との出会いは驚きと感動

を与えてくれます。

また、在るがままの自然の環境の中での乗馬、釣り等も湧き上がる活力を感じ、心と体の健康には最適です。。

そして、近隣のインディヒナの村を訪ね、現地の文化を知る機会も持ち、それらの文化を理解し、お互いを尊重する相互の交流の場も準備しています。

特にレダの近郊は珍しい鳥が多くバードウォッチングに関心のある方には天国です。



環境に優しい石油代替エネルギー開発を目指すレダの未来

過去、七年間、日本と世界にいる支援者の援助を受け、人が住むことさえ難しい地域の改善をなし、十分、生活が成り立つ所まで変化を遂げてきました。稻を初め、野菜や、マンゴ等の果物の栽培も出来ております。椰子の木以外は見当たらない場所にも各種の木を植樹し、美しい景観が創造され、多くの鳥や動物達の憩いの場になっております。エコツーリズムの環境には最適の場を作り出し、今後は多くの人を惹きつけ、環境保全に対する人間の責任の重要性を伝える貴重な生きた研修が出来ると期待しています。

七年の間、経験を積みながら、今まで環境を破壊せずに、むしろ環境を豊かにしながら、人々の生活水準を高めることの出来る産業を探してきました。レダの地は土地に塩分を含み、土壌は痩せた粘土質で長い乾季のある難しい土地であるので困難を極めましたが、ジャトロファを育てバイオディーゼル生産をすることにより、可能であることが分かりました。

『インドのアンドラ・プラデシュ州チャバールディ村では、女性達がクロヨナの種子から生産した燃料を用い灌漑ポンプを動かしている。各世帯は電気代として毎週7kgの種子を婦人会に治める。二〇〇三年には種子の活用範囲を広げ、ドイツとの排出削減クレジット取引（二酸化炭素換算で九〇〇トン）で村の歳入総額に相当する四一六四ドルを得た。低迷する農村地帯に收入をもたらすだけでなく、外国は今回の事業拡大投資が、向こう五一年で二十億ドルの経費削減と千七百万人の雇用をもたらすものと期待している。また、バイオディーゼルの加工コストがヨーロッパやアメリカの三分之一程度なので、これらの地域に対してインドが原料のみならずバイオディーゼル製品の主要供給国になることを期待している。』（ドイツGTTZ2005年から）

インドでのバイオによる村おこし

『既に入口千二百萬の十二%（農村部では一%）しか電気を利用できていなマリでもジャトロファの木を植え始め、そこから採れる油で発電機や自動車の燃料を生産し始めています。』

ジャトロファは実を四十年近く実らせ、乾燥地帯の劣悪な土壤でも育ち、食用作物と競合しないが、窒素固定作用で土壤に肥料成分をもたらしてくれます。石鹼材料や調理燃料として用い、油糧種子の加工システムは低コストで、稼動と維持に高度な訓練を必要としないなど途上国にとり、換金性のある産業として可能性を持つものです。貧しく、生きるだけに全ての糧を使つてしまい、教育や医療を改善する余裕の無かつた途上国が先進国からの援助に頼るのでなく自立する道を拓くことの出来るプロジェクトになることで、よう。レダでの成功を世界に広げ世界の平準化に貢献できるよう現地で懸命に歩んでいます。』

厳しい環境のレダでのバイオ燃料の成功は途上国への未来を拓く



レタからの報告 十一月十三日

十一日に四人の医者がオリンポからボートでやつてきました。バイネグラまでの各村を訪問して、医療調査をされたとのことでした。にわか雨にあい急遽レダに立ち寄るという突然の訪問でしたが、夕食を差し上げ、ゲストハウスに泊まつて頂きました。十二日の朝は晴れていました。ガソリンも二リツター提供し、喜んで元気にバイアネグラ方面に出発され、お見送りしました。昼過ぎ、双発の飛行機が隣の牧場に降りました。夕方二人の人がレダに来ました。聞いてみるとドクター達をアスンションにお連れする為、迎えに來たと言います。「へえー、そんなこともあるのか」と驚きましたが、後でわかつたことには、一行の中に一人女医の方がいて、その方がパラグアイの保健省の副大臣で、医師会の会長もされている偉い方なのだそうです。

巡回を終えた一行がアルミニボートで戻つて来ました。再会を喜び、車で隣の牧場に待つている飛行機の所まで送つてあげることにしました。

上山先生と私で一台の車で出発しましたが、昨日の雨で、隣の牧場へ行くゲートのところが、深い水溜りとなつて行く事が出来ません。同行した警察署長はじめ彼らは何とか行きたいから、「大丈夫、大丈夫」と車から降りて前に立つて手招きします。上山先生の車だけ試しに走つてもらいましたが、案の定、立ち往生して動けなくなりました。警官も男の医師も泥んこの中に入つて車を押しますが、スリップして言つ事を聞�ません。あきらめてもらい、女医さんも途中のアランブレーをくぐつて隣の道路を歩いて飛行機の所まで行つて貰うことになり、別れを惜しみながら荷物を持つてご一行は遠去了つて行きました。ところが陽も沈んだ午後七時半、再び隣のトラクターに乗せられて、戻つて来ました。滑走路がぬかつて飛行機が飛び立つ前に動けなくなつてしまつたそうです。お気の毒に、疲れ果てて戻つて来ました。

早速再度ゲストハウスに車でご案内し、シャワーを浴びてもらい、夜八時過ぎて暗くなつている為、食堂まで車でご案内して、夕食を取りつて頂きました。

日本人の皆とも交流することが出来、スペイン語の十六分ビデオ「日陽園の歩み」も自然に紹介でき、感動されました。よくよく聞けば、病院船を造つて定期的に一ヶ月かかりでバラグアイ川に沿つて無医村の村々を回つていくという構想で、今回も調査巡回となつたそうです。「セミナーハウスも使えるか」という質問があり、「ドクターの研修も、看護婦の研修も可能である」と応えると、近隣の「牧場主」達を集めて医療研修することを考えているという。九時半ぐらいまで交流がされました。

今日十三日、朝六時前後から、ついに又雨が一時間ほど降つてしまつた。ボートで行くことも検討されたが、もっと大きな雲が近づいている為、色々検討されました。我々の滑走路に飛行機を呼んで、出発することになりました。心配の危惧をよそに、無事に飛び立つていきました。見送つた人々の間に、離陸してグーンと飛び立つ瞬間、思わず歓声と拍手が沸きました。

日本人の皆とも交流すること

報告 十一月十六日

炎天下ジャヤトロア植え付け作業が続いています。ラタイ牧場方面道路の排水溝造りもセメント打ちが終わりました。この写真を撮つた後、車に戻るうとしたらもう少しで道路に横たわつていた二羽くらいのアナコンダを踏みそうになりました。あわてて気がついて足を引っ込みましたが、彼も驚いて逃げて行きました。一方白鷺か鶴か、何種類か混ざつて百羽以上の群れが、数日、基地前の支流に住み着いています。昼は支流の奥地へ行つて夕方、帰つてきます。伊達先生が軽い熱中病にかかるつて大事をとつて今日は少し休んでもらっています。日陰で四十度ですか、直射日光の下では過酷です。でも、皆黙々と汗を流して頑張っています。

飯野貞夫

南北米福地開発協会 事務局
〒一一三一〇〇〇一
神奈川県川崎市高津区
溝口三一十一十五
岩崎ビル四F
電話 ○四四一八一九一二八二一
Fax ○八一九一二八二〇
会費納入 郵便口座
一〇一八〇一七七六八〇四七一
代表 柴沼邦彦